

首都圏などで活動する女性グループ「水俣」を子どもたちに伝えるネットワーク」などが、水俣病患者に寄り添い続けた医師の故原田正純さんの講演を再構成した本「いま、『水俣』を伝える意味」を出版した。原田さんや患者の思い、研究者の寄稿を通じて原発や環境保全など現在の社会課題を考えるきっかけにしてほしいと訴えている。

同ネットは若い世代に水俣病事件を知ってもらおうと、2000年に首都圏の主婦らで結成。主

故原田医師の言葉から

水俣病の教訓 考えて

に小学5年生を対象に出前授業を続けている。害のほか、カネミ油症や海外の水銀汚染にも言及。「痛みのない教訓は

本は03年に東京で開いた同ネット総会での講演録。「漁村の食生活」や「胎児性患者との出会い」などテーマ別にまとめ

た。原田さんは水俣病で胎児や子どもが受けた被害のほかに、カネミ油症や海外の水銀汚染にも言及。「痛みのない教訓は

「胎児性患者との出会い」などテーマ別にまとめた。原田さんは水俣病で胎児や子どもが受けた被害

代表(60) 相模原市



いま、『水俣』を伝える意味

原田正純講演録

著者：鎌倉尊信
編集：水俣病被害者支援センター
発行：2003年12月
発行所：水俣病被害者支援センター
〒253-0292 静岡県清水市水俣町1-1-1

故原田正純さんの講演を再構成した「いま、『水俣』を伝える意味」

女性グループ 講演録を本に

28 熊日

「原田先生の話は原発事故後の社会のありようにも通じる。古い話ではなく、あらためて水俣や福島のことを考える契機にしてほしい」と話す。

寄稿した国際基督教大学の池田理知子教授(コミュニケーション学)は、

水俣病が特別な事件ではないと強調。「水俣病も原発事故も身の回りで起きうる問題。当事者として関わるのが重要だ」としている。

158ページ、千円(税抜き)。くんぷる。

(鎌倉尊信)